

国立大学法人奈良女子大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

奈良女子大学は、女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を発展させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目指している。第2期中期目標期間においては、社会の要請や時代の変化に柔軟に対応できるよう、教育研究組織や業務全般の見直しを行い、効率的な組織運営を図ること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、戦略的な大学運営を強化するべく常勤理事を3名から4名に増やしたほか、学内運営組織である室や委員会の統合を行い効率化を図るなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

「ミッションの再定義」を踏まえた研究力と人材育成の強化を進め、文学部・理学部・生活環境学部の強みや特色を発揮するため、学部の枠を越えた改組計画を策定し、平成26年度からの実施に向けた準備を行ったほか、若手・女性研究者や卓越研究者の雇用を促進し、学長のリーダーシップによる戦略的人事を進めるための方針を役員会で定め、全学的・戦略的観点からの人事に関しては学長直下の審査会で選考することとするなど、学内規程を改正している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成26年度から、生活環境学部及び人間文化研究科博士前期課程に臨床心理に関する学科・専攻を設ける改組計画と連動させ、臨床心理学分野の専門家養成及び研究を一体的に行い、広く社会の福祉、教育と精神保健に寄与することを目的とした「臨床心理相談センター」を設置し、地域住民を対象とする臨床心理相談を行うなど、地域の「こころの健康」支援拠点となることを目指している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載23事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- (①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守、④情報セキュリティ)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大規模災害等により、独自で十分な応急措置及び教育研究活動等の継続・復旧が困難な場合に、迅速かつ的確に被災大学に対し、物資の提供や教職員等の派遣等、緊急支援を実施することを目的として、近畿地区の13国立大学法人で「大規模災害等発生時における近畿地区国立大学法人間の連携・協力に関する協定書」を締結している。

平成25年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学院生の国際的な学術研究活動を奨励するため、「奈良女子大学国際学術奨励事業（学生の国際学会等での発表）」を実施し、旅費の一部を支給したほか、大学院博士前期課程国際社会文化学専攻・言語文化学専攻・人間行動科学専攻に入学した学生に対し、優れた研究を支援することを目的として「まほろば MC 学生奨励研究制度」を設けた。平成 25 年度は、6 名の大学院生を「まほろば奨励学生」として認定し、研究費の支援を行っている。
- 新入生の履修登録を円滑に行うため全学で実施している上級生による新入生履修支援ピアサポート事業について、新入生に対して行ったアンケート調査を実施した結果、大多数の学生が先輩の親切丁寧な対応に満足しているが、実施体制に改善の余地があったため、相談の集中しやすい期間前半に相談員を重点的に配置する相談体制の改善や学生相談員と教員の連絡体制の構築等の改善を図り、次年度以降も実施することを決定している。
- 高度な基礎研究、独創的な研究、学際的研究等において、世界的研究拠点形成の核となるリサーチコアの組織的構築を推進し、大学の発展に資する研究の推進のため、「研究推進プロジェクト経費」による研究プロジェクトの公募を行い、優れた研究プロジェクト 16 件（応募数 39 件）に総額 1,000 万円の研究支援を行っている。